
交差点でお別れを

千葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

交差路でお別れを

【コード】

N8325N

【作者名】

千葉

【あらすじ】

さよならなら、輝かしい世界

(前書き)

お借りしています。

DOGGOD69

<http://7thseven.2.tools.ms/>

前後左右
限り無く広がっているように見える可能性というやつも、
ふと眼を上げてみれば意外と制約されていることに気付く。

前の道は天国へ続き、
後ろの道は地獄へと続く。
左の道は振り出しに戻り、
右の道はどこへも着かない。

答えは分かっているはずなのに、僕はふとそこで立ち往生するのだ。
さて、僕はどちらからやって来たのだった。

そこに1人の男が合流する。
彼は僕から見て左の道からやって来た。
男は僕に問い掛ける。

「どの道がどこへ続いている？」

「分からない。」

僕は首を左右に振りながら嘔を吐いた。

男はしばらく立ち止まり、思索するような顔つきになった。

彼は結局右の道を選んだ。可哀想に。

僕は彼の背中が見えなくなるまで見送った。

男の姿が消え去ってしまうと、再び僕と沈黙だけが生存する世界になった。

僕は眼を閉じた。

どこか遠くの方で風の音が聞こえた気がした。

実はこの空間に沈黙など無かった。

僕の鼓動や呼吸や血管を血液が流れていく音が、沈黙が世界を支配するのを阻んでいた。

僕は眼を開けた。

そしてゆっくりと、目の前の道へ一步を踏み出す。

この道はどこへ続くのだろうか。

ずっと奥の方で響く、誰かの声が届いてきたような気がした。

僕は次の場所へと進み出す。

戻れないかも知れない場所に背を向ける。

戻れない場所とは、一体何だろうか。

それは、恐らく

交差点でお別れを

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8325n/>

交差路でお別れを

2010年10月9日15時29分発行